

中期標準化戦略(概要と目的)

専門委員会・AG名

AI活用専門委員会

1/3

企画戦略委員

江川 尚志(NEC)、清水 聡(日立製作所)

登録委員数

23(1グループ) / 16

正副委員長
リーダー・サブ

委員長：藤原正勝(NTT)、副委員長：宮澤雅典(KDDI)

図解

活動の目的・意義

次世代サービス基盤に関わる様々な局面において、AI活用によって基盤の高度化が見込める分野の中から、共通の技術ドキュメントなどの会員企業が協働作業が必要と考えられるテーマについてその具体化とその検討を行う。
また、AI活用を推進することで、世界中から知見の収集と情報発信により、会員の新たなサービス創出や最先端ビジネス環境構築促進につなげる。

活動する上での課題

- 調査対象ユースケースの広がり不足
- 課題抽出、アーキテクチャへの検討深度が不足

関連のSDGsゴール



活動方針

- Ad-Hocより提示された下記4検討対象テーマについて、メンバー確保の見込みがあるテーマから検討する。①エッジ型アプリケーション高度化、②サービスレジリビリティ・運用自動化、③設備障害予測・保守効率化、④サイバーセキュリティ対策
- ユースケース調査、具体課題の調査・設定に注力し、その結果をベースにその後のWork Item、成果物、関連専門委員会との連携を検討する。
- Work Itemは、“By AI”(AI活用による情報通信サービスの高度化検討)と“For AI”(AI活用をより効率的/効果的に行う検討)の両面から検討する。
- 成果物は、標準に限らず会員の事業に寄与するものとし、あらゆる知見、発見、情報の包含を考慮する。標準制定の要否は専門委員会にて決定する。

国内外
標準化団体動向

- IEEE：「AI Global Initiative for Ethical Considerations in AI and AS」がELSI課題を中心に論点整理。Ethically Aligned Design(EAD)ver.2発行。
- EADで出た論点に基づきP7000～P7010の11件の標準化プロジェクト設立済。
- ITU-T SG13:通信に機械学習応用を検討するFG-ML5G設立(2017/11月)
- SG16:AIによるマルチメディアアプリケーションに関する課題を追加(2019/3月から)**
- ISO/IEC JTC1:SC42(AI)設立(2017/10)。国内審議団体:情報規格調査会
- ETSI: ISG ENI(Experiential. Networked Intelligence:2017/2月),ISG ZSM(Zero touch network and Service Management:2017年12月)設立
- TM Forum:顧客エクスペリエンス, サービス, 網の各管理へのAI応用をPoC等で検討中。
- OSS系:多数のオープンソースコミュニティ。Acumos, TIP(Telecom Infra Project)等。

関連する
専門委員会

- Network Vision専門委員会:FG-Net2030対応、CJK対応等
- 信号制御専門委員会:CJK対応等



別紙に拡大したAI実装位置例を示す

中期標準化戦略（18年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名

AI活用専門委員会

2/3

重点取り組み	・各委員からの要望に応じた、ユースケース選定とその具体検討による、AI適用への具体検討の実施 ⇒各委員の認識レベルに差がある事が判明し、データ分析、テキスト/映像分析/運用管理をテーマとした、課題抽出/解決策検討/AIの適用可否等の一連の検討を小グループで作業を行う、グループ活動を実施し、一連のAI化プロセスを実施 ・専門委員会：7回 ・小グループ：4回			
主な活動項目	概況指標	2018年度目標（当初計画時）	2018年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	-		
	外部会合への 参加・連携状況	必要に応じて		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件（予定しない）	-	
	TS/TR/SR	0件/0件/0件（予定しない）	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	-（予定しない）	-	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	AI活用に関するセミナーまたは、ワークショップの開催	-	
	記事投稿、講演会	必要により検討	-	

重点取り組み

工場での稼働管理・予兆管理、店舗等での映像認識等、委員会メンバーが興味を有するテーマ提案を募集し、

- ① AI適用事例調査
- ② 抽出したAI適用事例から、テーマ関わるユースケースの推測
- ③ ユースケース集の作成
- ④ 専門委員会で報告すると共に、過不足を皆で議論
- ⑤ 調査で得た情報をベースに、メンバーから検討要望がある情報通信分野のユースケースを検討

その際に、調査した事例をベースに、

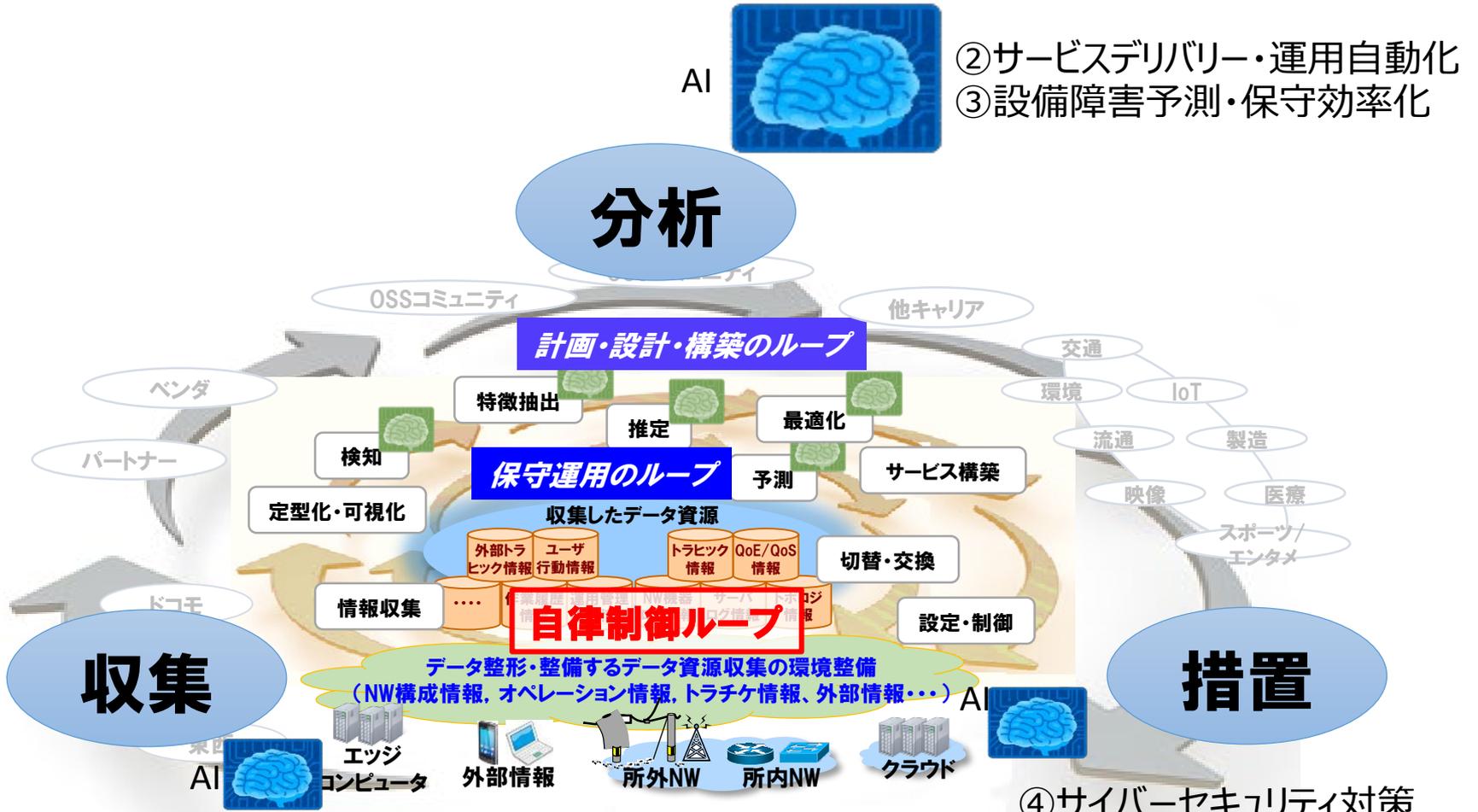
- ・何ができて、何が出来ないか
- ・自分達に應用するにはどうするか
- ・できないことをできるようにするには、何を足せばいいか

の検討を行う。

ユースケース検討に加えてTTCとしてのアウトプットの具体化（データセット、システムアーキテクチャ、ガイドライン等）に資する観点で、外部動向（ITU-T FG-ML5G等）の調査を実施する。

主な活動項目	概況指標	2019年度目標（当初計画時）	2019年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	-		
	外部会合への 参加・連携状況	必要に応じて		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件（予定しない）		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件（予定しない）		
③ ダウンストリーム	数	-（予定しない）		
④ プロモーション 普及推進	セミナー	AI活用に関するセミナーまたは、ワークショップの 開催		
	記事投稿、講演会	必要により検討		

別紙



① エッジ型アプリケーション高度化

④ サイバーセキュリティ対策